

【恐竜図画コンクール全体講評】

（審査員長：加藤 桂子氏（前福井市立日之出小学校校長）、

（前福井県小学校教育研究会図画工作部会長、元福井県中学校教育研究会美術部会長））

審査会場に並べられた応募作品の1点1点にその子のストーリーが込められ、また子どもならではの豊かな表現や色彩があって、どの作品も愛おしく感じました。この子たちが大人になるにつれて、こんなに無邪気に、自分の感じるままに、慣れない手を動かして、楽しんで描くことは少なくなっていくかもしれないと思うと、子どもの時の絵をいつまでも大切にとっておいて欲しいという気持ちになります。

子どもの絵には、頭から直接手足がはえていたり、手足の数が多かったり、大きさのバランスがおかしかったりと、大人から見れば不自然な表現もたくさんありますが、これらはそれぞれの年齢や発達段階なりの見方や感じ方や関心によるものです。その年齢でしか描けない独特の表現としてほほえましく、大人の絵にはない強さや味わいがありますね。

恐竜は、未だその生態や姿かたち、皮膚の模様など、完全には解明されていないところが多いこともあり、また今回は絵本などからの想像も手伝って、こどもたちの描いた恐竜は、とてもユニークで、色彩の豊かな、楽しいものが多かったです。どの作品も可愛らしく、楽しくて、甲乙つけがたく、審査に苦労いたしました。

入賞作品からは、子どもたち自身が自分の絵の中に入り込み、夢中になって一気に描いている様子が、勢いのよい線や、筆（指）遣いや、色の強さなどから伝わってきます。子どもたちが、どんなお話や場면을想像しながら描いたのか、ぜひ聞いてみて欲しいと思います。きっと、たくさんの素敵なストーリーが詰まっているでしょう。